

農畜産業振興機構補助事業

# 中販連 だより

2004  
Vol.8

中国地域指定生乳生産者団体 中国生乳販売農業協同組合連合会 機関誌

発行●中国生乳販売農業協同組合連合会 編集・発行人●鍵山 信 儀

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀8番23号林業ビル4階

TEL082-511-3371 FAX082-511-3399



## CONTENTS

- 季節別乳価の導入議論
  - 大山乳業農協新工場竣工式
  - 事業経過報告
    - 受託販売実績●用途販売実績
    - 編集後記

Chugoku Fresh Milk Sales-Agricultural Cooperative Association

# 生乳取引・需給の安定化に向けた 季節別乳価の導入議論本格化

・・・政策誘導事業が呼び水

今年度(平成一六年度)の酪農関連事業において「需要期生乳生産推進事業」が新設されて以降、季節別乳価議論が活発化しています。

中販連としては、現在、導入の可否に関する会員内の組織討議段階にあり、来る七月一日開催の生乳受託販売委員会・理事会において結論を得ることとしております。

今、何故・再び季節別乳価なのでしょうか。以下、生乳生産分野及び生乳需給分野の両面からその功罪等について紹介します。

## 酪農生産現場に根強い慎重論

### ☆中販連会員間に温度差

季節別乳価については、旧(県域)指定団体時代において相当数の団体で取組みが行われていました。

中国管内では山口県が現在も実施されておりますが、かつて実施されながらも数年で廃止された県、さらには、検討段階に留まった県等、各様の経過があります。

とりわけ、実施されながらも廃止

に至った県の場合は、同一県内にありながらも夏季の加算金が自然条件の有利な地域への集中する利害関係が生じたことから慎重論には根深いものがあります。

さらには、夏季(需要期)増産に対する季節別乳価の効果は個体の分娩時期との関係から一過性に終わり、しかも、高温多湿な西南暖地においては個体への負担増から生ずる疾病・事故等へのリスクが慎重論を増幅させています。

現に、島根・岡山・広島県の農業共済連データの集積による平成十五年度成乳牛死廃事故頭数の月別実績を〈表一〉で見ると、暑熱時季の七〜九月の単月実績は四〇〇頭を超え月平均の三三三頭を大幅に上回っています。また、三ヶ月間の総実績は年間の約三分の一を占めています。

### ☆生乳取引と手取り乳価の安定化への実効策としての季節別乳価

既に前年度までに季節別乳価に取り組まれている指定団体は関東・東海・九州の三団体です。

この内、西南暖地にありながらも先行実施している九州生乳販連の格差が最大であり、今年度においては七〜九月の需要期と一〜三月の需要期との格差はkg当たり二十円を上回るものと想定されます。

九州の場合は、域内需要を上回る生産力を有し、余力は近畿・中国地区への移出により乳代の極大化を図ることにあります。このため、不足時の夏季における生産力の確保が不需要期の安定販売と乳価の安定化をもたらすことから、生産者段階への動機付けと実効策として旧指定団体

〈表一〉成乳牛死廃事故頭数の推移(平成15年度)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
頭数	280	323	285	405	414	469	383
割合	7.0%	8.1%	7.1%	10.2%	10.4%	11.8%	9.6%
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	頭/月
頭数	289	365	268	251	256	3,988	332
割合	7.2%	9.2%	6.7%	6.3%	6.4%	100.0%	—

〔資料〕島根・岡山・広島県農済連とりまとめ

時代から季節別乳価への取組みが行われておりました。

因みに、消費地を抱える関東・東海指定団体においては、関東が四円、東海が十円程度の格差で実施されています。

☆今年度新規取組み指定団体が続出

・・・中販連が最も慎重

需要期生乳生産推進事業は都府県酪農を主体に生乳需給関係の改善を目的として新設され、業界紙等での紹介が酪農現場での話題と関心を誘うこととなりました。

しかしながら、この事業による奨励金の享受に当たっては指定団体における季節別乳価対策の実施が必須条件となります。

このため、未実施の指定団体においても季節別乳価への積極的な検討が行われ、五月末現在では中販連を除く四指定団体が導入決定、若しくは、ほぼ決定の域にあります。なお、新たに取り組む指定団体の格差（需要期・不需要期）は二・三・五円と先行指定団体の格差よりも小幅なものとなっています。

中販連としては、会員段階にお

る過去の挫折事例もあり慎重な検討が必要なことから、現在、会員段階での組織協議をお願いしており、七月一日の生乳受託販売委員会・理事会で最終結論を下すこととしております。

ここまでは、生乳生産分野から季節別乳価を巡る中販連内の実情及び全国情勢を紹介しました。

続いて、中国管内の生乳需給の側面からみた季節別乳価について紹介します。

需要期の生乳自給率低下が需要期の過剰流動を招く懸念

☆平成十四年度からは年度自給率が一〇〇%を割る

中販連が発足した平成十三年度以降の管内の月別生乳需給推移をへ表1-2に表しました。

同表の概観において、生乳出荷曲線(B)は十三年度以降停滞基調にあるのに対し、飲用等向け処理曲線(A)は十四年度に大幅増加して以降、十三年度の水準を上回って推移しております。

次に、年度ベースの生乳自給率

(B/A)を過去五カ年間でみると、一〇五・五%(十一年度)↓一〇四・三(十二年度)↓一〇一・二%(十三年度)↓九二・〇%(十四年度)↓九四・九%(十五年度)となり、十四年度を転機に管内の生産量では飲用処理量を賅えない不足地帯となりました。

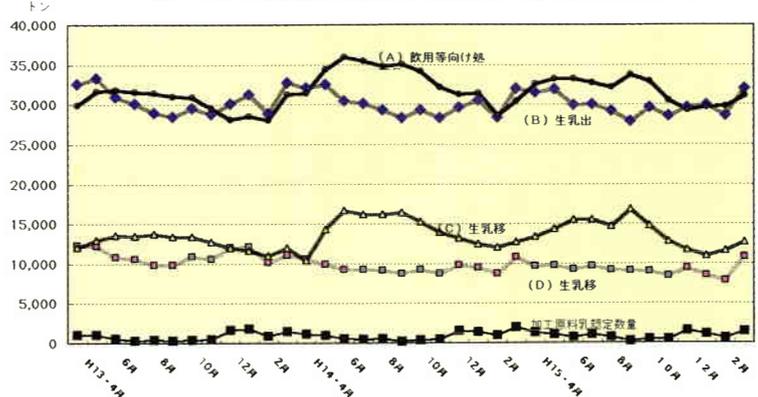
しかし、管内需給の課題は需要期と不需要期における自給率(過不足)の格差が生ずることにあります。

年度内で処理量が最大で生乳需給が最も逼迫する九月の自給率は九二・三%(十一年度)↓八一・四%(十四年度)↓八三・六(十五年度)へと急降下しております。

反面、処理量が最も少ない一月の自給率も、一一一・一%(十一年度)↓一〇一・九%(十五年度)と需要期に比例して急降下しているものの処理量は賅える水準です。

このように季節的需給がアンバランスな実態にあることから、そのシワ寄せは域外からの生乳移入(C)に現れます。冷夏となった十五年度の場合、九月の移入量は一六・八千トン、一月は一・一千トンとなり両月間には実に三五%の格差が生じています。

〈表-2〉中国地区の月別生乳需給推移 (平成13年4月~)



資料：牛乳乳製品統計（農水）

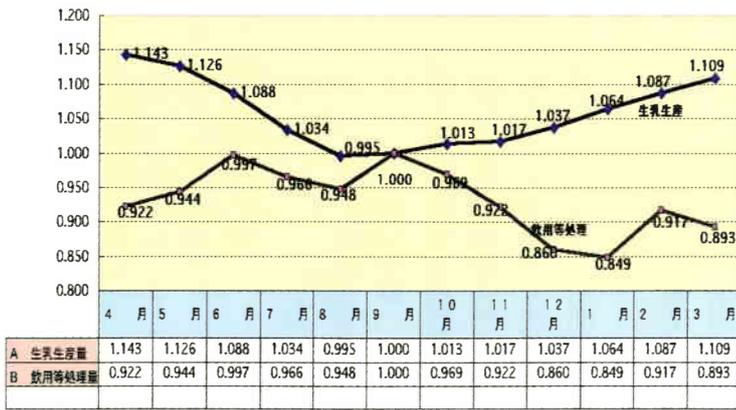
☆生乳生産と処理曲線の不一致は宿命

西南暖地にあり、且つ、前述の自給率の動向に照らせば、管内の生乳生産曲線と処理曲線との不一致は宿命的なものと言えます。

この実態を月別に指数化して表したものがへ表1-3です。

基準点を需給の最も逼迫する九月

〈表-3〉中国地区の生乳生産・処理動向指数（日量ベース、9月基準）



に置き、双方の月別の増減をみると、生乳生産は暑熱禍に見舞われる八月、九月を底として飼養環境の良い時季に向けて増加し、頂点の四月との格差は数量ベースで十四%強となります。

これに対し、飲用等処理は六月、九月が夏季需要期の頂点となり、冬季に向けて約十五%低下します。

なお、盛夏の七月、八月の指数の低下は学校給食休止(夏休み)に起因

するものです。

このような宿命的な乖離がある中で乳業者、全国連及び関係指定団体との間で需給調整の役割を担う機関が中販連となります。

☆管内の生乳需給に絡む関係者の相互理解と協調が不可欠

広域指定団体に移行したメリットは管内需給情勢の把握と対外関係先への情報発信の一元化にあります。

中販連としては管内生産量を基本に乳業者、全国連及び関係指定団体への理解・協力を求め、過剰流動(余乳)がもたらす取引・乳価への弊害の回避に努めております。

中販連設立以降の生乳需給は緩和感無く推移したため、弊害は回避できました。

しかし、需給とは生き物です。管内需給の季節的な「ひずみ」の調整を乳業者や域外指定団体にシワ寄せすることによる利害問題の発生等も想定されます。

このため、需要期の生産対策の一環としての季節別乳価については、単に管内だけの問題に留まらず、広域流通の時代においては乳業者及び

関係指定団体との協調関係の中に位置付けられる重要課題と言えます。

脱脂粉乳過剰在庫・季節的な生需給アンバランスの構造化改善

☆全国的課題は脱粉過剰の深刻化

…国は需要期生産誘導策を新設  
全国の需給状況に目を転じてみると脱脂粉乳(脱粉) 過剰在庫は十五年度末で九・三万トン、需要量の六・五ヶ月に相当する過去最高の在庫量となっています。

このような背景を抱えながら、十六年度の計画生産数量は生産基盤の維持と脱粉在庫の積み増し防止を基本に策定されました。幸いにして都府県では前年実績比九八・七%(中国地区九八・八%)と実質は前年度並みの生産が可能な水準に設定されました。

しかし、国からは脱粉在庫問題に関して、都府県の不需要期余乳についても在庫積み増し要因となることを懸念して、減少努力に強い関心が寄せられております。

その一環とも言える政策誘導策として不需要期と裏腹の関係にある需

要期の需給均衡化にスポットを当てた「需要期生産推進事業」が新設され、十六〜十八年度の三年間を目途に実施されることとなりました。

☆事業採択には指定団体の季節別乳価への取組みが必須

新設事業の概要を紹介しますと、  
(一) 需要期に生乳生産量を増加させた生産者(経営者個人)を対象に、増加数量にkg当たり四・九円又は九・八円の奨励金を交付。

(二) 要件等

① 指定団体が季節別乳価を設定していること。

② 既に季節別乳価を実施している指定団体内の生産者に対しては乳代加算が行われる月の対象(増加)数量に九・八円の「需要期奨励金」を交付。

③ 十六年度から新たに季節別乳価を導入する指定団体内の生産者に対しては初年度奨励金四・九円を交付。二年度目からは九・八円。

④ 需要期とは事業年度内の六〜十一月の期間。

◎ 需要期内において指定団体の

季節別乳価で加算が行われる月の基準数量に対する増加数量が奨励金の対象。

③ 増加数量判定の基準となる数量(基準数量)は生産者が所在する県の過去三年間の生乳生産量に占める需要期生産量の「割合」。十六年度における基準数量は、

◎割合算出の分母↓A

十二～十四年度の県単位合計生乳生産量(農水省統計)。  
十五年度は冷夏の特事情で採用せず。

◎割合算出の分子↓B

十二～十四年度における指定団体の季節別乳価加算期間(月)の県単位合計生乳生産量(農水省統計)。最大は六～十一月の六ヶ月間

◎十六年度の生産者毎の生乳受託販売数量↓C

◎基準数量算式

$B/A \times C$  基準数量

〈県別基準数量割合II B/A〉

- 鳥取県 四八・五%
- 島根県 四八・五%
- 岡山県 四八・三%

- 広島県 四九・四%
- 山口県 四八・四%

\*Bは六ヶ月間を採用。

\*県別数量割合は中略試算。

\*十四年度の一部(十五年一～三月)統計が速報置であり確定により修正あり得る。

④ その他の要件

- ◎指定団体の計画生産遵守
- ◎糞尿処理対策の適正実施

### 中販連は七月一日の販売委・理事会で最終結論

☆需要期奨励金の受け取り対象者は約五五%・・十五年度で試算

新設された補助事業の算定要領を十五年度の生産者別数量に適用して試算してみると、先ず、戸数では管内生産者一、三八一戸のうち五五%相当の七六八戸が奨励金受け取りの対象者となります。

対象数量については需要期(六～十一月)数量の二・四%に相当する三・九千ト、これに奨励金単価の四・九円を乗じると約一九・一百万となります。一戸当たりの平均奨励金は約二・四万円、最多は三十万円

に達する生産者もあります。

これは初年度実施の場合の試算であり、二年度目からは二倍の奨励金(単価九・八円)となります。

☆中販連版季節別乳価原案は補助事業への対応を意識

中販連では去る五月十二日及び五月十九日の二回に亘る理事会で季節別乳価の検討を行った結果、  
①酪農生産現場への影響を踏まえた慎重論

②減産型計画生産を余儀なくされるまでの危険水準にある過剰脱粉問題

③需要期増産を意識・実践され補助事業の奨励金享受が可能な生産者への配慮

④全国的な取組み状況 等  
以上のような広範な意見を踏まえ、事務局原案提示による会員段階での組織討議を通じて来る七月一日の生乳受託販売委員会・理事会にて最終結論を得る旨がとりまとめられました。

これを受けた事務局原案の要旨は次の通りです。

①需要期・不需要期の設定

◎需要期 六～十一月

◎不需要期 四～五月及び十二月～三月

②需要期・不需要期の格差単価

◎需要期 一円加算(kg)

◎需要期 一円減算(kg)

◎不需要期 一円減算(kg) 名目「運用拠出金」

\*補助事業への対応上、季節別乳価における加減算単価は一円(需要期と不需要期の格差は二円)が最低水準となります。

③対象生乳 受託販売生乳全量

④格差金額の確定 単月及び期別処理とせず年度実績確定後の一括処理により奨励金・拠出金を確定

⑤運営財源の精算 ◎拠出金が奨励金を上回る場合、上回った(残余)金額は当年度九月の受託販売数量に対し全額精算

◎奨励金が拠出金を上回る場合の不足財源は中販連が賄う



幅田 大山乳業農協組合長

# 大山乳業農協新工場竣工式開催される

本会の会員である大山乳業農協が、平成十四年度より進めておりました、牛乳・はつ酵乳製造工場が完成し、去る六月一日、約一八〇名の来賓・関係者による竣工披露式典が盛大に開催されました。この新工場は、最新鋭の設備機器

☆リスクを伴う挑戦は危険・・・暑熱対策努力が組み立ての基本  
会員段階においては、補助事業への取組みよりも酪農生産現場へのリスクと生産者間の利害が絡む中販連版の季節別乳価に関心が集まることは想像に難くありません。

しかし、管内の乳価は年間を通じて乱高下するものではなく、リスクを伴う投機的な経営を求めているものではありません。  
季節別乳価の原案については暑熱対策努力を範囲とし、且つ、補助事業への対応上必要な最小の格差に留

めた組み立てとしております。  
これを契機に、管内全体で需給問題や計画生産運営問題等、広範に亘る課題検討を通じ共通認識と連帯感の醸成が促進される事を期待して止みません。

の導入し、総処理乳量は中国地方最大能力1日当たり一八〇tで、  
①高度な品質管理、②開かれた工場（バリアフリーの見学コース・PR室（ここでは、カメラによりリアルタイムの製造現場を見る事が出来ます）、③人と環境に優しい工場を目指して建設されました。

幅田大山乳業農協組合長（中国生乳販連副会長）は、竣工式の中で、「創業以来、幾度かの増改築を繰り返してきたが、いよいよ手狭となり、お客様に安心して、牛乳を飲んでいただくためにも近代



工場全景 1

## ▼事業経過報告（4/1～6/20）

- 4・8 全国学乳推進協議会検討会（東京）
- 4・13 大阪乳業協同組合打合せ（津山市）
- 4・15 生乳取引委員会（東京）
- 4・19 新潟県酪連視察研修（広島市）
- 4・20 指定団体機能強化整備検討委員会（第5回）（広島市）
- 4・23 会員・全国連需給調整会議（広島市）
- 4・28 全国学乳推進協議会検討会（東京）
- 4・28 Jミルク拠出金業務担当者会議（東京）
- 4・30 広島県酪農振興協議会（広島市）
- 5・12 中国生乳販連理事会（第1回）（岡山市）
- 5・13 加工原料乳生産者経営安定対策事業等説明会（東京）
- 5・13 酪農乳業懇話会（三原市）
- 5・18 乳質改善推進委員会（東京）
- 5・19 中国生乳販連理事会（第2回）（広島市）

■新工場の概要

敷地面積 18,742㎡、延べ床面積 12,994㎡  
 建物構造 鉄骨造一部3階建て

市乳・乳飲料製造ライン 6ライン  
 はっ酵乳製造ライン 5ライン  
 クリーム製造ライン 2ライン  
 バター製造ライン 2ライン

処理量 180t/日  
 貯乳能力 400t

的で、衛生的な工場建設に踏みきりました。国、県等の行政機関の協力援助と工事関係者のご協力により、工場は完成しました。  
 しかし、これからが正念場。「酪農家の心を食卓へ」という理念に基づき、今後も、誠実にものをつくり、安心して飲んでもらえる製品を消費者に届けていきたい。」との決意を込めた挨拶をされました。



工場全景 2



市乳・大瓶包装ライン



市乳・大瓶充填機

- |                 |               |  |                     |                                      |                     |                      |                       |                     |                      |  |                     |
|-----------------|---------------|--|---------------------|--------------------------------------|---------------------|----------------------|-----------------------|---------------------|----------------------|--|---------------------|
| 6・18            | 6・14          | 6・3  | 6・3                 | 6・1                                  | 5・31                | 5・28                 | 5・27                  | 5・26                | 5・25                 | 5・24                                       | 5・19                |
| 会<br>（島根県・全農島根） | 委員会（第7回）（広島市） | 生乳需給調整委員会（東京）<br>指定団体機能強化整備検討委員会（第7回）（広島市） | 中国生乳販連監査会（第1回）（広島市） | 大山乳業農協新工場竣工式及び畜産大賞受賞祝賀会<br>（鳥取・大山乳業） | 指定団体実務責任者会議<br>（東京） | 島根県乳業協会通常総会<br>（松江市） | 日本酪農乳業協会通常総会<br>（岡山市） | 岡山県製酪協会勉強会<br>（広島市） | 会員・全国需給調整会議<br>（広島市） | 委員会（第6回）（広島市）<br>指定団体機能強化整備検討委員会（第6回）（広島市） | 西日本指定団体協議会<br>（広島市） |

## 平成16年度 会員別受託販売実績 (4月~5月)

(単位: kg)

	4月	前年比	5月	前年比	4月~5月累計	前年比
大山乳業農協	5,499,334.9	104.10%	5,699,663.6	104.71%	11,198,998.5	104.41%
全農島根県本部	5,627,489.5	99.24%	5,782,000.4	100.32%	11,409,489.9	99.79%
おかやま酪農協	11,079,363.4	96.68%	11,455,291.5	99.51%	22,534,654.9	98.10%
広島県酪農協	5,335,197.0	95.64%	5,583,229.8	98.25%	10,918,426.8	96.96%
山口県酪農協	2,219,375.0	98.82%	2,262,392.0	98.62%	4,481,767.0	98.72%
合計	29,760,759.8	98.42%	30,782,577.3	100.29%	60,543,337.1	99.36%

岡山県のみ公共を含む。

## 平成16年度 用途販売実績 (4月~5月)

用途	区分	4月	前年比	5月	前年比	4月~5月累計	前年比	構成比
飲用牛乳向け	販売量	23,576,530.9	98.52%	24,133,198.7	101.39%	47,721,729.6	99.95%	77.0%
	販売額	2,265,100,299	98.65%	2,316,063,801	101.23%	4,582,357,500	99.94%	
学校給食向け	販売量	1,879,024.0	102.45%	2,325,451.0	84.34%	4,204,475.0	91.58%	6.8%
	販売額	210,407,768.0	102.74%	259,847,117.0	84.41%	470,254,885.0	91.73%	
はっ酵乳等向け	販売量	3,006,528.9	91.30%	3,210,228.6	93.25%	6,216,757.5	92.30%	10.0%
	販売額	257,758,810.0	91.86%	275,792,706.0	93.84%	533,551,516.0	92.87%	
特定乳製品向け	販売量	1,288,697.0	97.87%	1,254,023.0	118.47%	2,542,720.0	107.05%	4.1%
	販売額	75,891,363.0	97.87%	73,849,411.0	118.47%	149,740,774.0	107.05%	
生クリーム等向け	販売量	628,785.0	131.06%	643,909.0	157.23%	1,272,694.0	143.11%	2.1%
	販売額	50,660,985.0	131.06%	51,861,311.0	157.37%	102,522,296.0	143.17%	
チーズ向け	販売量	17,651.0	101.71%	18,283.0	37.75%	23,934.0	70.40%	0.0%
	販売額	1,190,295.0	101.13%	1,218,735.0	24.69%	1,473,030.0	63.44%	
合計	販売量	30,397,216.8	98.47%	31,585,093.3	100.27%	61,982,310.1	99.38%	100.0%
	販売額	2,861,009,520	98.69%	2,978,890,481	99.72%	5,839,900,001	99.22%	

(公共並びに九州再販含む)

### 編集後記

毎日3回、体にいいコト。

3・A・Day(スリー・ア・デイ)

例年よりも早い入梅ですが、意に反して好天が続く今日この頃です。しかしながら、飲用市場は、正に曇天。4月の消費税の総額表示移行で、少なからず財布の紐は硬くなり、国会での年金法の改正のドタバタ劇に、老後の不安は高まるばかり。かくなる上は、老いても、健康で働ける体を維持しなくては。

3・A・Day(スリー・ア・デイ)とは牛乳・乳製品(ヨーグルト・チーズ)を1日3回または3品を取り入れる事により、健康に良い食事を実践しようとする呼びかけです。

▼3・A・Day委員会 事務局

(社)日本酪農乳業協会

詳しくはネットで閲覧できますので、覗いてみてください。

HPアドレス <http://www.3aday.jp/>

単身生活も長くなり、自らの食生活を反省、反省・・・

### 第4回通常総会

開催日  
7月23日(金)

場所  
広島パシフィックホテル  
広島市中区上八丁堀8-16